日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヵ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

家族に嬉しいクリスマスセット

人気の①グリーンティー760 円 ② モ カ ブ レ ン ド・レギュラーコーヒー930 円（以上各1つ）③フェアトレードチョコレート380 円（味おまかせ2 つ）。
①②③計送料込3,250 円を3,000 円でお届け！
◎プレゼント用にはラッピングバッグでお届けします。(申込時にラッピング希望とお伝えください)
※流通事情により到着日指定はご容赦下さい。
【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026　大阪市中央区内本町1-4-12NPO ビル402
TEL :06-6755-4877　FAX :06-6755-4888
メール : customer@kbwin-win.org
Web : キングダムビジネスで検索。
お早めにどうぞ！
★国際協力カレンダー 好評発売中★

● 知る・触れる・つながる世界！

高校生のための国際交流・国際協力 EXPO2015（大阪）
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth
トーク、ファッションショー、ワークショップ、茶道など、学生、一般の方も参加できます。
日時：12 月 26 日㈯　10 － 17 時
会場：大阪国際交流センター
（大阪府大阪市 天王寺区上本町 8 － 2 － 6）
詳細はホームページをご覧下さい
http://owf-youth.com/

● 年末年始は本de リンクの活用を

年末の大掃除などで、不要になった本（コミックも含む）やCD、DVD ゲームソフトを換金して、飢餓に苦しむ人々の支援に用いることができます。JIFH 愛知事務所までお送りください。なお、破れや書き込み、汚れのあるものはお引き受けできません。詳しくは愛知事務所まで。
【2015 年実績】66,077 円

東日本大震災・復興支援

当機構は韓国国際飢餓対策機構（KFHI）の協力を得て、仙台市宮城野区蒲生で流失した「シーサイドバイブルチャーチ」（内藤智裕牧師）の会堂再建工事を進めています。津波被害跡地から10㎞内陸地（宮城県仙台市宮城野区燕沢2丁目10－68）で、工事は日本人技術者と韓国人技術者の協力で進めています。完成は2016年1月の予定。
また、東北事務所では仙台市近郊の方限定で、工事関係者の食事づくりや清掃のお手伝いボランティアを受付けています。詳しくは、東北事務所TEL.022（217）4611　伊東・加藤まで。ご協力を宜しくお願いいたします。

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!
4千口突破！ 4037口

今すぐ ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

□ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
□ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
□ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
□ JIFHサポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1口 500 円）
□ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
□ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）
▼申込日：　　年　月　日▼NL 305 号

FAX・072-920-2155

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができるようになりました。Tポイント募金はこちら http://tsite.jp/donation/

■発 行 者　岩橋竜介
■発 行 所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
ハンガーゼロで検索！
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170-9-68590 ／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ
今すぐ募金ができます！　かざして募金
「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル（株）経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

大　阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1　TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東　京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室　TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東　北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6エマオ2階 E　TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛　知　〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F　TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広　島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F　TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖　縄　〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンク米 202号　TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A　Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605　TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

1 分間に17 人（内12 人が子ども）
1 日に2 万5,000 人
1 年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
2015 12 No.305

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

サポーターに手紙を書く子（ボリビア・リオカイネ）

分かち合いを生きる力に

日本国際飢餓対策機構　広報主任　鶴浦弘敏

当機構の一人がある教会を訪問した折、古いパンフレットが残されているのを見つけて持ちかえってきました。パンフレットの表紙には「国際飢餓対策機構　日本協会」とあり、当機構の創設時（1982年）の団体名称でした。このことはパンフレットが残されていた教会が当機構の創設当時から、飢餓・貧困に苦しむ方々のために祈りと支援を続けてくださってきた証でもあり、とても嬉しく励まされました。

その30数年前のパンフレットを興味深くみていると、一つの気づきがありました。それは当時の世界の飢えの現状についての統計でした。『1分間に28人が餓死（内21人が子ども）、1日に4万人が餓死、1年間に1,500万人が飢えで死んでいます。』このニュースの表紙にも同じ統計が掲載されていますが、見れば一目瞭然、この30数年で飢餓に苦しむ人々の数が明らかに減少していることがわかります。当時1分間に28人失われた命が、今は17人に。決してハンガーゼロを達成できたわけではありませんが、この問題を克服しようとする世界の国々や国際協力機関、何よりも困難の中から自ら立ち上がろうとした人々の努力、さらに私たちが力を合わせてきたことは無駄ではなかったと思わされます。まさに「（支援の）継続は力なり」です。

茨城県の水害被害調査に出向いたスタッフからお一人の方の報告を聞きました。「数年前から飢餓対策ニュースを読むようになり、世界の飢餓、貧困の現実を目の当たりにして、自分は豊かではないけれど精一杯募金をすることを決めました。そのための毎日の一食を約160円程度に抑えて、節約した分も募金しています」。ご高齢のこのご婦人には、幼少期の戦争体験があり「本当に食べるものがなくひもじかった。アフリカの子どもたちが同じような思いをしていると思うと辛いです」と涙ながらに語っておられたとのことです。自分の一食を切り詰めて、その分を誰かのためにささげ、そのことを喜び、生きる力としてくださるこの方の生き方に心から感動を覚えます。

この１年間皆様から寄せられましたご支援、ご協力を感謝いたします。また飢餓対策ニュースをお読みくださりありがとうございました。皆様からのお便りもお叱りの声も励みにさせていただいておりますので、どうぞご意見ご感想をお寄せください。メリー・クリスマス！

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

報告・酒井　保

日本国際飢餓対策機構は、食料や学用品などの短期的な状況改善を目的とした援助活動や緊急援助と、長期的な視点に立って根本的な問題解決を図るための支援の両方をおこなっています。ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンがミンドロ島サンアンドレス村で取り組んでいる地域開発と呼ばれている活動は、この長期的な視点に立っておこなわれる活動です。この「地域開発」は、一般の国や地方自治体にだけに頼るものではなく、「そこに住む住民たちが、自分たちが抱える問題の解決に自分たちで取り組みようになっていくこと」です。

長期的な視点で住民による地域開発に取り組む

人の可能性と変化

ハンズ・オブ・ラブが支援している地域の人々の考え方や心が、どのように変化しているのかを他の人に知ってもらうのは簡単なことではありません。

例えば、教育支援の為に学校の校舎を建てたのなら、写真一枚でわかります。しかし校舎が建ったからといって子どもたちが学校に来て、学び始めるということにはなりません。その前にまず、子どもたちが学ぶ意義を保護者が理解して学校に送り出すことが必要です。そして子どもの教育に意欲的に取り組む。それがあって初めて教育支援は実のあるものとなります。

地域開発での最初の一歩は、地域住民の人々が家族単位の考え方から社会的に、地域的に物事が見えるようになることです。私たちがこのシドと呼ばれている少数民族、マンヤン族の集落に関わり始めた時、住民参加型の社会調査（PRA）を行いました。住民を代表して参加してもらった方に地域の様子の地図を作成してもらったのですが、そこに描かれた地図は集落の情報が非常に乏しかったことを覚えています。地域のリーダーと呼ばれる方は何人かおられましたが、その方々が地域のために何かしているかということも見受けられませんでした。地域リーダーの役割も明確なものがないように思われました。この単なる家族の集まりにすぎないシド村の人たちが、一つの共同体、社会となっていくためにどのように関わっていくべきなのか、それが私たちの課題となりました。

6年前に作成した地図は大雑把なものでした

住民によって行われた社会調査（2015年７月）

識字教育を足がかりに

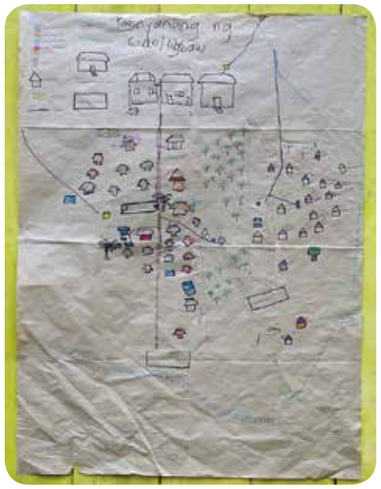
具体的な活動としては、まず青年、婦人に対して識字教育を行いました。そしてその修了者たちによって新しくグループ活動が生まれました。この村では家族単位でないグループ活動自体が目新しいものでした。そのグループの運営支援や行政機関が提供する住民支援サービスへの申請支援、そしてリーダーシップトレーニング等々を行ってきました。

自分たちの思いを地図に

7年間という月日が経って、私たちは個人でも村でも変化が起きていることは実感できるのですが、それを支援してくださっている方に伝える方法はないかと考え、再度PRAを実施することにしました。前回は集落の代表だけでしたが今回は参加したい集落の人々全員に参加してもらい、一日かけて社会マップ、資源マップを作ってもらいました。

結果として、写真にあるように私たち自身も驚くような地図が作成されました。

最初は地面に描いてもらいました。若干縮尺（距離感）がおかしいところもあったのですが、紙に描き写した時にはそれらも修正されていました。最終的に完成した地図は、家の位置関係、その家にはどんな人が住んでいて、家畜を飼っている、飼っていない等、村の様子や有り様が一目瞭然となっていました。また情報をわかりやすくするためのマークも自分たちで考案していました。家族の名字の頭文字も書かれていました。私たちはこの地図を村人たちが作成したのを見て、私たちの思い以上に自分たちの村に対する人々の思いが募っていると思いました。



今年作成された地図には、さまざまな情報が書き込まれています

地図の作成ができたからといって、人々が一致して問題解決に取り組むということにはなりませんが、以前は私たちが何かを始めるのをずっと待っていた人たちが、最近は村全体の問題としてあしたい、こうしたいと相談してくるようになってきました。私たちはこの地図を見て改めて人の可能性を知ることになりました。

婦人に対する識字教育

住民ボランティアによるモラル教育（2014年８月）

保護者による給食活動

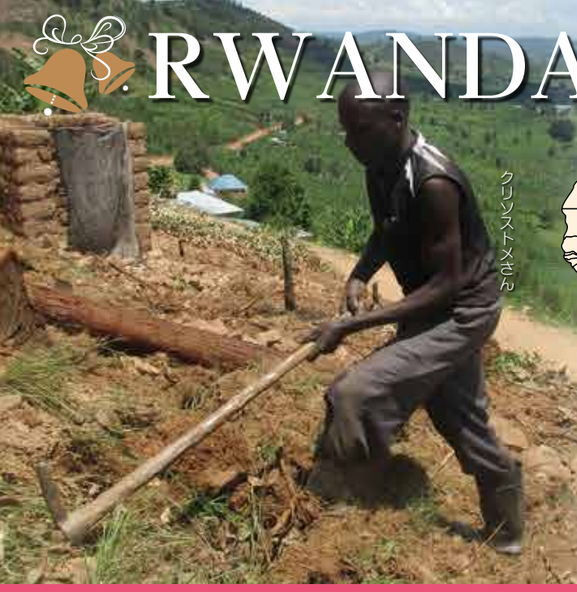
関わり過ぎないこと

この村からの撤退の時期が近づいてきていると思っています。確かに問題はたくさんあります。しかし人が住む以上、村から、人の社会から問題がなくなるということはありません。大切なのはそれに取り組む姿勢とその手法を持っている、ということです。人々の中で育つ自尊心を尊重するのであれば、過度の干渉（手助け）は依存心を生むことになり逆効果となります。その全てに関わることは私たちのすべきことではないと思っています。

私たちは、今後は彼らが生み出していくビーズクラフトのような製品を取り扱うビジネスパートナーとして関わる可能性を探っています。そうすることで新たな共生社会が築いていけると考えているからです。皆様にはもうしばらくこの働きをご支援をもって見守っていただければ感謝です。

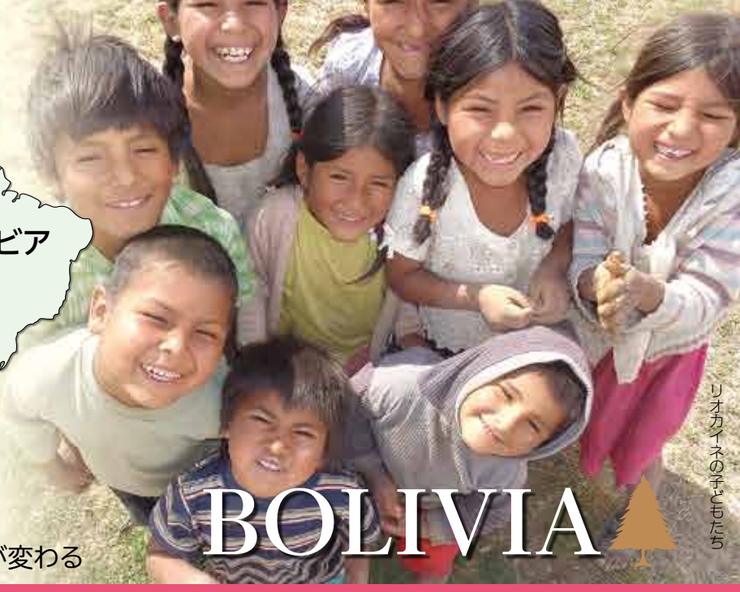
応援ください！

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンの活動のために募金をお願いいたします。郵便振替の際は「フィリピン指定」と明記ください。



2015 クリスマスに愛の贈り物を

ルワンダ & ボリビア



わたしから始める、世界が変わる

農業トレーニングを実施　人々の生活改善を応援してください！　子どもたちの栄養のために

ルワンダは標高差の大きい土地柄で、JIFHのパートナーFHルワンダが活動している東部州ガツィボ地方の山奥にあるニャギハンガ地区は、土地の34%が宅地としても耕作地としても利用できない森林に覆われています。人口の97%以上の人が農業を生活の糧としていますが人口密度が高く、各農家はわずか6m×10mほどの土地しか持っていません。その小さな土地を休ませることなく耕し続けているため、せっかく作った農作物

コミュニティの水源

もあまり出来がよくありません。バナナやソルガム（穀物）など1～2種類の作物しか作っていないため、収入は市場の需要に大きく影響されてしまいます。

堆肥造りや家畜の飼育

そんな現状を打開し、いま持っている土地を最大限に活かして収入を向上させ、家族が健康に暮らせるようになることを目指して、FHルワンダは農業プロジェクトを計画しています。輪作、糞尿堆肥作り、改良種の使用、家畜の飼育などのトレーニングを実施し、その結果増えた収入をきちんと管理して有効に使える貯蓄グループを形成します。メンバー同士が励ましあえる場でもあります。最もやる気のある10戸の農家には、環境に配慮した農法を取り入れる手助けをします。今の窮状を脱して家族の生活を安定させたいと、100戸の農家がこのプロジェクト参加に手を挙げています。参加する方々の意気込みをお聞きください。

土地の養分が減ってしまって悩んでいました。小さな土地でもたくさん作物ができるように肥料や品種改良種の使い方を覚えたいと思って参加を決めました。とても楽しみにしています！（クリスティンさん）

まず、子どもたちが十分に食べられるように、その上で残った作物を売って暮らしが少しでも楽になるようにと思い、この農業プロジェクトに参加することにしました。（クリソストメさん）

今回のトレーニングは、参加する100戸の農家の生活を安定させるだけではありません。知識と技術を習得した彼らがモデル農家となり、地域全体の暮らしを改善していくことが期待されています。

活動のための必要は**240万円**。このクリスマス、新たな一歩を踏み出そうとしているルワンダの人々に、「希望」のプレゼントを贈りませんか？

ルワンダ　「新たな一歩」となるように

ボリビア　「鯉の養殖」にチャレンジ

世界里親会が支援するボリビアのリオカイネ地域は、ボリビア第3の都市コチャバンバから135㎞離れた、標高1800mにあります。JIFHは2012年から、現地のFHボリビアを通して子どもたちの教育を支援してきました。

リオカイネに住む人々の最も大きな課題のひとつは、環境の厳しさと貧困による栄養不良で、5歳以下の子ども、および妊婦や出産適齢期の女性の間では特に深刻です。ボリビア全体では1000人中39人の子どもが5歳未満で死亡していますが（日本は3人。ユニセフ2013年調査）、この地域では70人と大変高くなっています。中でも2歳以下の子どもの22.8%が慢性的な栄養不良に苦しんでいます。

この地域の人々は、肉や質の良い新鮮な野菜からタンパク質を摂取できていません。米、トウモロコシ、人参、玉ねぎやトマトなど、限られた作物が主な栄養源なのです。5歳以上の子どもも、脳の発達に必要な鉄分不足で学校での学習が困難になり、成績が上がらず、学習意欲がそがれて、遂に学業を放棄してしまったりします。

スタッフの家庭訪問

このような状況を改善するためにリオカイネの人々は、FHボリビアのスタッフと話し合いを重ねてきました。そして今、子どもたちの健康状態を改善し、生活を向上させる取り組みを始めようとしています。それが食用鯉の養殖プロジェクトです。

栄養改善と現金収入

リオカイネの自然環境を活かして鯉を養殖し食用とすることで、子どもたちの栄養不良を改善し、余剰分は現金収入に結びつけることで地域全体の生活改善を目指します。まず地域の15家族を対象に鯉の養殖に関するトレーニングを実施し、モデルとなる養殖池を設

鯉の養殖池

置して飼育を行ない、これらが上手くいけば他の家族にも拡大していく計画です。この計画のためには**123万円**を必要としていますが、約2.3万円あれば、1家族分の養殖池を掘ることが出来ます。又約5.3万円で、魚の稚魚500匹を買うことが出来ます。

このクリスマスに、家族の健康改善のために大きな一歩を踏み出そうとしているリオカイネの人々の自立への希望と夢を応援していただけませんか。ご協力をお願いいたします。

クリスマス募金は
郵便振替00170-9－68590
日本国際飢餓対策機構
「クリスマス」と明記
ウエブサイトからも募金ができます

世界里親会は、多くの里親さんのご支援のもと2015年11月現在、世界7ヵ国で2000人以上の子どもたちとその家族や地域の自立をめざして活動を続けています。里親になって「こんな嬉しいことがありました」「こんな発見がありました」と便りを寄せてくださった中から、いくつかをご紹介させていただきます。

里親のめぐみ
チャイルド・サポーターさんのページ

里子の成長が何よりも嬉しくて

～チャイルド・サポーターさんの声～

“心のつながりを実感”

＊私はとても恵まれた里親です。里子の成長記録や手紙が届くたびに、しっかりと成長している様子が分かり、支援させて頂いていることが喜びです。また里子の写真が「地球家族」のカレンダーにのり、とてもほこらしくその夢を応援したいと思わされます。里子の自筆の手紙は嬉しいものです。心のつながりを実感しております。また世界を見つめる視野も広がり、学ぶことも多くなりました。このような機会に出会うことに感謝します。

“孫にも世界を伝えたい”

＊７歳と６歳の孫を毎日、夕方だけ預かっています。この子たちは豊かな日本の中で、必要は全て満たされているため、日本から遠く離れている里子の国を世界地図で教えました。もっと大事な、日本にいては考えられないような乏しい食料事情や社会事情などを、理解できる範囲で教えています。小さい頃から世界に目を向け自分の周囲だけが世界ではないと知ることも大切です。

“私の苦手なことができる‼”

＊職業訓練学校で服を作った、と聞きました。私は裁縫や手芸が大の苦手です。里子さんが私よりいろんなことができるようになることを聞くのはとても嬉しいことです。写真では皆はだしですね。靴ははかない習慣なのかしら…。丈夫でありますように。

“いつ頃の様子かな？”

＊里子からの便りを心待ちにしていますので、手紙を手に取るときは嬉しいです。日付がもう少し詳しく記入されていれば、いつ頃の様子か分かると思いました。

“教室の生徒から歓声が”

＊教会の英語教室を通して里親をしています。日本の子どもたちが他の国の子どもたちに目を向けて、世界で起きていることに興味をもってくれるよう、JIFHのチラシやマンガを通して働きかけています。里子の成長記録を見て「うゎー　すごい！」と、去年から手紙を書いてくれている生徒さんが歓声をあげていました。少しずつですが反応が見え始めていてこれから楽しみです。

里親さんにお手紙を書く里子たち

チャイルド・サポーターを募集しています。資料請求・お申込は、最終頁またはウエブサイトから。公式HPは“ハンガーゼロ”で検索

連載〈4〉

ラテンアメリカの人々とともに

変わるものと変わらないもの

ボリビア多民族国
駐在　小西小百合

クリスマスが近づいてきました。ラテンアメリカの大部分の国では多くの企業・職場は12月24日の午後から休みです。24日夜と25日は家族で祝うのが通常で、25日は国全体の休日となっています。

祝い方は街と田舎では大きな違いがあります。ボリビアの街では、24日は家族や親戚が集まり多くの場合パネトンという乾燥フルーツ入りのパンとホットチョコレートを、また夜10時以降にクリスマスイブの夕食としてピカーナという具沢山のスープ（牛・豚または羊の肉・鶏肉、人参、玉葱、ジャガイモ、トウモロコシ、いんげん豆等が入り塩・にんにく・白ワイン・コミノという香辛料を用いて味付け）を頂きます。幼い子どもたちも頑張って日付が変わるまで起きています。それは25日の午前０時、大人も子どもも“フェリス・ナビダッ（メリークリスマス）！”と言って頬にキスをして抱き合い、子どもたちは家族や親戚からのプレゼントを開けていくことができるからです。

動物・家畜と祝うクリスマス

一方、私が活動しているコチャバンバ州・アンデス山脈の標高3000～4000mの田舎の村々では、ボリビアで古くから続いている土着信仰である大地の母・パチャママ信仰が根強く、人々は農作物の豊穣を祈願します。スペイン人がボリビアを植民地化した時にカトリックの信仰が伝わり、その後キリスト教プロテスタント（新教）の教会がこの地域にもできましたが、今でも大部分の人々はクリスマスを祝いません。この地域のクリスマスは動物・家畜と一緒に祝うもので、現地語で“キルパク”といい羊、リャマ、牛の耳に色とりどりの毛糸や布の飾りをつけます。またそれら家畜、特に羊の体に子どもを沢山生むようにとの願いを込めて、ピンクと白の小さな玉状の甘いお菓子やキヌアという雑穀、また色とりどりの小さな紙片を上からふりかけるようにして散りばめます。そしてクリスマスの特別料理（じゃがいもと子羊またはリャマの肉を調理したもの）を家族や村の人々と一緒に食べます。

子どもへのプレゼントは殆どありませんが、村のキリスト教会では特別礼拝をし、献金の中から子どもたちにお菓子や小さなおもちゃなどの贈り物をします。

地域によって変わるものと変わらないものがありますが、今年も世界中で、クリスマスの本当の意味が伝わるお祝いが行われることを願っています。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（聖書）